

深川えんみち

複雑さを受容する仕組みと空間のデザイン

JAMZA一級建築士事務所 共同主宰 長谷川 駿

はじめに

少子高齢化と人口減少が深刻化し、孤独や孤立が社会的な課題と言われて久しい今、建築に何が可能だろうか。建築が街や社会の複雑さを受け入れ、関わる人々の自発的な活動を後押しし、地域社会の緩やかなつながりを維持する存在になることができれば、その解決の糸口の1つとなることができるかもしれない。そこには、異なるものが混じり合い、共存することができる仕組みと空間のデザインが不可欠となる。我々が設計した「深川えんみち」[図1]は、東京の都心部においてその課題に応えることを試みる実践の場である。

多世代が共に過ごす深川えんみち

深川えんみちは、東京都江東区深川に2024年5月にオープンした、多世代共生の複合型福祉施設だ。福祉建築の分野では、これまで安心安全を求められるあまり、世代が分断され、地域から孤立せざるを得ない状況が多く存在してきた。この流れに一石を投じるべく、0歳から100歳まで、福祉に関わりの少ない世代も含め、多世代が集い、交わり、縁を紡ぐことができる福祉施設を目指した計画である。主な用途としては、1階に高齢者デイサービス、2階に子育てひろばと学童保育クラブが入り、1階の入り口付近に地域の方と共に運営する私設図書館を設けている。

●図1 深川えんみち

